

『 第 86 回 新制作展 スペースデザイン部 展覧会記録 』

<第 86 回展のビジュアル > <スペースデザイン部審査風景 >



ポスター・招待状デザイン。メインビジュアルは永津守委員長の作品が使用されました。
SD 部一般公募の審査会は 9 月 8 日(金)に実施されました。

<陳列作業風景 >



作品陳列は 9 月 19 日(火)に実施、毎年開催日前日に行われます。午前は壁面作品を先行して設置、午後から床置き作品とミニアチュールと作業のタイミングを分けることで混乱なく展示することができました。16 時展示が完成、その後に会員推挙や賞を決める受賞会議が行われました。

<スペースデザイン部会場風景>



会場全体を臨む：

毎年様々なパターンで会場構成を試みます。配置の仕方でも作品同士が呼応する様子なども変化していきます。今回も昨年に続き SD 会場入口から彫刻部奥まで視界が届く連続した会場となり、開放的な空間になりました。



ミニアチュール作品は様々な素材と形態が 35×35×65(cm)のサイズの白い台上に並びます。今回も昨年同様に入口の最初の空間に集められ来場者を楽しませてくれました。



各ブースの作品群：天井までの高さは約 6 メートル。普段中々得られないサイズの空間です。



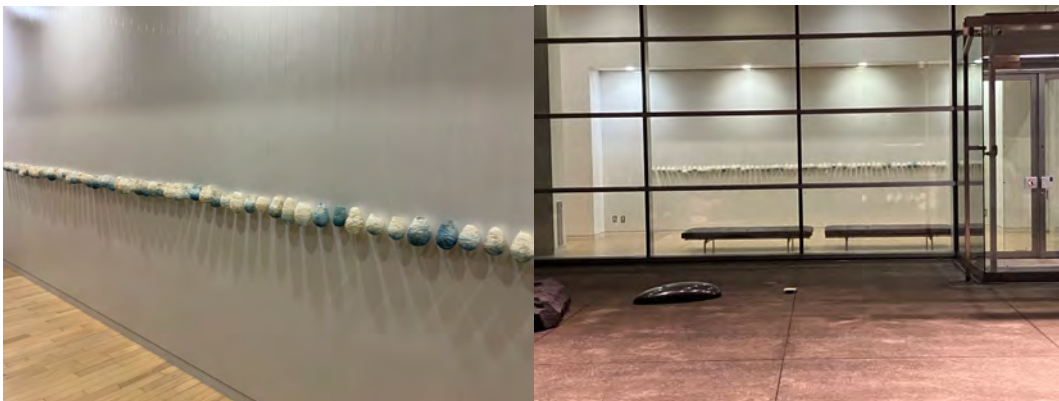
壁作品と床の立体作品が呼応するように配置されています。



展示作業では何度も検討されながら位置の変更を繰り返し配置決定に至ります。



壁と遮蔽のロールカーテンで空間を仕切り、照明作品のための暗い展示空間を準備しています。



恒例の休憩室壁面の展示、今回は片岡葉子さんが担当しました。
毎年1名の作家によるスペシャルな空間になります。



野外空間には彫刻部とSD部の作品が並びます。自然光、風、時に雨。作品はその環境の中で表現されます。金曜日夜間開館（20時終了）では照明が入り、暗い中に作品が浮かび上がります。

（野外展示作品、左－伊藤哲郎、右－尾埜行男）

<オープニングトークの様子>



オープニングトークは展覧会初日の9月20日(水)15:30からSD部展示会場にて行われました。一般出品者と会員約20名の方々による約1時間程度のギャラリートークが実施され、素材や技法のこと、作品完成に至るプロセスなど、作家達のリアルな話をライブで聴くことができる貴重な場面となりました。

<SDトークセッションの会場風景>

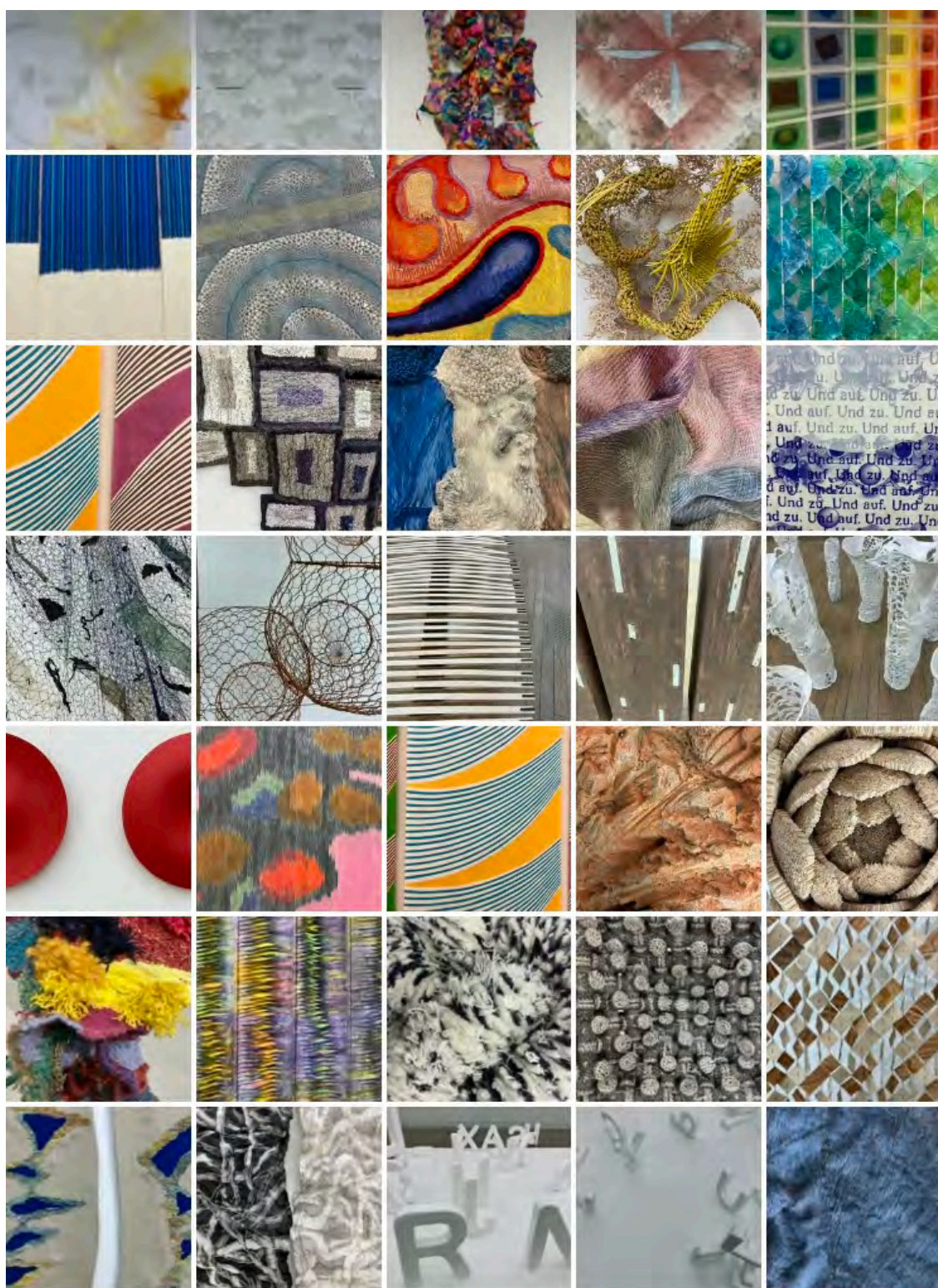


「クリエイターの話 私のイメージの源泉」9月24日(日)14:00~15:30 会場：3F研修室B
トークメンバー：伊藤哲郎、岡本泰子、西村俊夫、山口和加子 司会：金子武志
コロナの空白を経て久しぶりに開催するSD部の企画「SDトークセッション」。
キャリアの異なる4名の会員が、設定された様々なテーマをもとに、SD部や自身の創作について語りました。会員それぞれの創作にまつわる様々な視点を参加者と共有でき有意義な時間となりました。

<SD部懇親会>



コロナにより約4年ぶりとなったSD部懇親会は、展覧会初日の9月20日18時半からパーティスペース「Park6 六本木ヒルズ」で行われました。会員23名、一般出品者23名(学生4名)合計46名の参加があり盛況な会となりました。



今回の 86 回展に出品された SD 部作品のクローズアップ画像を一部集めてみました。

色・形・素材・テクスチャが様々並び、多様性に溢れた豊かな表情になります。